

排水機場の遠隔操作機能の整備により、排水機能を強化する

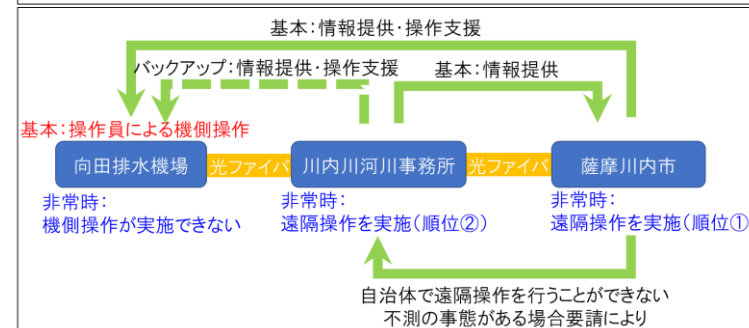
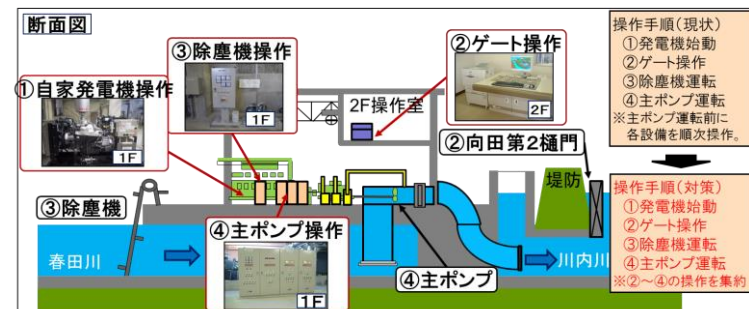
【対策】101 河川、砂防、海岸分野における施設維持管理、操作の高度化対策

対策概要：気候変動により水災害リスクが高まり、インフラの老朽化が進行する中、適切な施設維持管理や施設操作の高度化のため、排水機場等の遠隔化や、3次元データ等のデジタル技術を活用した維持管理・施工の効率化・省力化を図る。

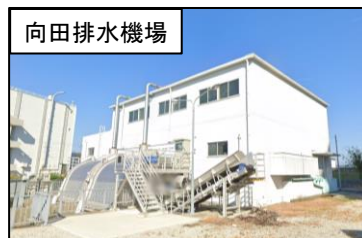
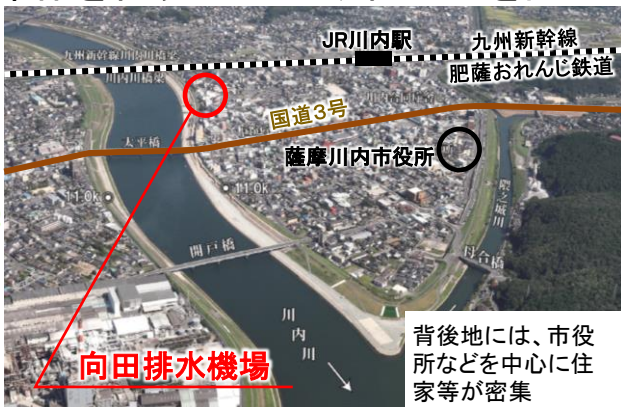
府省庁名：国土交通省

【事例】^{せんだいがわ}川内川河川維持修繕事業

- 実施主体：国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所
- 実施場所：鹿児島県薩摩川内市
- 事業概要：近年の頻発化・激甚化する水災害による急激な水位上昇等に対応するため、^{むこうだ}向田排水機場において遠隔操作機能の整備。
- 事業費：約0.6億円
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約0.6億円)
- 効果：事務所及び操作委託先の自治体で遠隔操作が可能となったことにより、急激な水位上昇や水位変動に合わせた操作が必要となる排水機場において、**現地へのアクセス不能時でも確実な操作が可能となり**、浸水被害の軽減に寄与することができる。また、将来複数の機場において同時に遠隔操作を行うことにより省力化を図ることができる。



向田排水機場における遠隔操作



操作員による機側操作
(2人に対応)



自治体(操作委託先)等からの遠隔操作
(少人数で対応することが可能)